

平成22年度 特別推進研究 審査結果の所見

研究課題名	AIDによるtopoisomerase1を介したゲノム不安定性誘導のメカニズム
研究代表者	本庶 佑
審査の所見	応募者はこれまでに、AIDを中心とした抗体免疫記憶とDNA切断に関する研究で国際的に高い評価を受けている。本研究は、応募者のこれまでの優れた研究成果を基盤に発展的に計画・立案されたもので、極めて独創性が高く、研究計画、研究の意義、研究遂行能力など申し分のない内容である。本研究の実施により、AIDによるトポイソメラーゼ1を介したゲノム不安定性誘導の研究分野において成果が得られ、さらに世界をリードする可能性が非常に高いと考え、特別推進研究として採択すべき課題であると判断した。